

SPI® **World Symposium**

～ Dr.Markus Hürzelerが語る最新のソケットシールドテクニックと臨床応用～



2026.4.25-4.26
Dr. Markus Hürzeler
特別来日講演



国内演者



栗谷 英信 先生



安斉 昌照 先生



小川 雄大 先生



奥田 浩規 先生



萩原 誠 先生



湯口 晃弘 先生

Hands On
ハンズオン

2026.4.25 sat 9:00-18:00
Dental Plaza Tokyo

12.1 mon 0:00- 受付 Start!!

Symposium
講演会

2026.4.26 sun 10:00-18:00
東京ポートシティ竹芝

10.24 fri 0:00- 受付 Start!!



Prof. Dr. Markus Hürzeler

まもなく日本に伺い、皆様とインプラントに関する2日間の集中的で刺激的なトレーニングに参加できることを大変嬉しく思います。

トーメン・メディカルの優れたインプラントシステムを活用しながら、自らの知識と臨床経験を共有できることは、私にとって大きな名誉です。

日常臨床で確立されたコンセプトを紹介しながら、臨床症例を通じて皆様と学びを深めることを楽しみにしています。

この2日間の、専門的に有益であるだけでなく、仲間である先生方との交流の場となると確信しています。

Livio Marzo, Chief Executive Officer

トーメン・メディカルを代表し、長年のパートナーであるモリタ様が日本でこのような素晴らしいイベントを開催されることに、心よりお祝い申し上げます。

SPI ワールドシンポジウムは、知識とインスピレーションを共有する貴重な機会です。

皆様にぜひ積極的にご参加いただき、このシンポジウムの成功がもたらされることを願っております。



Sandro Fabbri, Chief Development & Technology Officer

トーメン・メディカルの SPI インプラントシステムは、機械的精度、シンプルなラインナップ、そして長期的な患者利益への恩恵に焦点をあて、数十年にわたる開発の成果を反映しています。

主要な設計特徴には、健全な歯周軟組織を維持するための機械加工カラー、迅速かつ確実な骨結合を可能にする超親水性表面、そして約40年にわたりインプラントの機械的安定性と精密な適合を実現してきた実績のあるバットジョイント接続が含まれます。これらは歯科臨床医に高い予知性と信頼をもたらします。

SPI を際立たせているのは、トーメンシステム全体におけるシームレスな互換性です。統一されたポートフォリオにより、歯科臨床医は複雑さを感じることなく効率的かつ柔軟に治療を行うことができ、結果として術者に安心を、そして患者さんに安全をもたらします。

私の使命は、実績ある信頼性と革新的なシンプルさを組み合わせながら、インプラントシステムを継続的に改良し、世界中の患者さんが生涯にわたり安定性と口腔健康を享受できるようにすることです。

Jasmin Waser, Chief Research & Technology Officer

トーメン・メディカルの SPI インプラントシステムは、明確な生物学的原則に基づいて開発されており、すべての工程で生体組織を理解し、尊重することを基本としています。製品の設計思想は「低侵襲な治療」に重点を置き、歯槽骨や軟組織の保存を可能にし、予測可能な治癒と長期安定を実現します。

幅広い研究と臨床的エビデンスは、SPI インプラントの生物学的信頼性を裏付けています。長年の臨床において、長期的な安定性と優れたパフォーマンスが一貫して確認されており、歯科臨床医に予知性の高い結果を提供します。

研究主導のアプローチと、生物学的プロセスへの深い理解を組み合わせることで、安全でエビデンスに基づいた、真に患者中心のインプラント治療を実現しています。これこそが SPI の基盤であり、今後もさらに進化させていきます。





World Symposium ~ Dr.Markus Hürzelerが語る最新のソケットシールドテクニックと臨床応用~

Hands On SCHEDULE 2026.4.25sat

 同時通訳あり

パーソナライズした歯科治療の観点からみたインプラント周囲の軟組織管理

審美性と機能性の両面におけるインプラント周囲の軟組織の管理は、ここ10年でより重要性を増してきました。インプラントの長期的な成功のためには、インプラント周囲粘膜の状態が極めて重要であることは明らかです。したがって、この部分の処置には多くの労力を注ぐ必要があります。

この明確な理解に加えて、患者さんは治療期間の短縮、手術の回数の減少、治療に伴う合併症の軽減、そして費用の削減も望んでいます。つまり、インプラントを生物学的に完璧な位置に埋入できるだけでなく、同時に軟組織の管理も行わなければなりません。これがインプラント治療を臨床医にとって非常に複雑なものにしています。これらの問題をすべて、このハンズオンコースで明らかにしてゆきます。



Prof. Dr. Markus Hürzeler

1984年 スイス・チューリヒ大学 医学博士号取得
1989年 スイス歯周病学会 認定医
1991年 ドイツ補綴歯科学会 認定医
ドイツ・アールベルト・ルートヴィヒ大学
臨床准教授
1997年～ ドイツ・ミュンヘン
Dr.Otto Zuhrtと共にプライベートクリニック運営

※すべてブタ顎骨にて実習

- 9:05▶▶11:00 **インプラント周囲の
角化粘膜を増やすための軟組織の採取**
- 11:00▶▶11:30  **ブレイクタイム**
- 11:30▶▶13:30 **インプラント埋入と併用した機能領域における
インプラント周囲の角化組織の増加**
- 13:30▶▶14:30  **ランチタイム**
- 14:30▶▶15:15 **結節部における自家結合組織の採取**
- 15:15▶▶17:15 **審美領域におけるインプラント周囲の軟組織増大と
トンネルテクニックの組み合わせ**
- 17:15▶▶18:00 **質疑応答**
- 19:00▶▶  **懇親会** 懇親会の詳細は別途ご参加の方へご案内いたします。

Symposium SCHEDULE 2026.4.26sun

同時通訳あり

ソフトティッシュマネジメント

座長 安斉 昌照 先生 / 奥田 浩規 先生

10:05▶▶10:20

Soft Tissue Management Made Essential

インプラント治療を成功に導くためには、適切な軟組織マネジメントが不可欠である。さらに、口腔内に既に存在するインプラントを長期的に温存するためにも、その周囲に良質な軟組織が獲得されていることが重要である。特に前歯部領域では、審美性への配慮が求められ、部位ごとに治療のゴールが異なる。本発表では、我々が目指すべきインプラント周囲の良質な軟組織の「基準」と、それを獲得するための「適切な手法」および「要点」について、自験例と文献の考察を交えて共有する。



U Dental OFFICE恵比寿 院長
小川 雄大 先生

東京歯科大学 卒業
静岡県 小川歯科医院 理事
東京科学大学 非常勤講師
THREEE 主宰

10:20▶▶10:35

審美インプラント治療に必要不可欠な軟組織マネジメントの勘所

審美領域におけるインプラント治療を成功に導く鍵は、ピンクエスティックとホワイトエスティックの両立である。とりわけピンクエスティックに影響を及ぼすのはインプラント周囲歯肉の色・表面性状・ボリューム、そして歯間乳頭の高さである。天然歯周囲歯肉とは異なるインプラント周囲歯肉の構築にあたり、今回は軟組織マネジメントを中心にオペの術式やタイミングについて症例を交えて解説する。



ユアーズデンタルクリニック 院長
湯口 晃弘 先生

北海道大学歯学部卒業
EAO インプラント認定医
日本歯周病学会 認定医
5-D Japan インストラクター

10:35▶▶11:05

New Ideas About Soft Tissue Management Around Implants インプラント周囲の軟組織マネジメントに関する新しい考え方

現代のインプラント治療における軟組織マネジメントは劇的に変化しました。20年前と比較して、他のさまざまな問題もより重要視されるようになりました。20年前は、手術部位を明確に露出させることが目標でしたが、現在は術後の合併症を最小限に抑えることが目標となっています。「腕の良い外科医は大きく切る」という表現は、もはや正しくありません。現在では、患者さんが術後の痛みをあまり感じないような部位に切開を加えることが重要視されています。これが、今回の講演で私が取り上げたいテーマです。術後の合併症を減らしながら、優れた結果を得るために、現在では切開をどこに配置すればよいのでしょうか？患者さんの創傷治癒能力だけに頼らずに済むような切開デザインには、どのようなものがあるのでしょうか？これらの問題をすべて、今回の講演で取り上げます。



Prof.
Dr. Markus Hürzeler

1984年 スイス・チューリヒ大学
医学博士号取得
1989年 スイス歯周病学会 認定医
1991年 ドイツ補綴歯科学会 認定医
ドイツ・アールベルグ・ルートヴィヒ大学
臨床准教授
1997年～ ドイツ・ミュンヘン
Dr. Otto Zuhrtと共に
プライベートクリニック運営

抜歯即時インプラント埋入

座長 萩原 誠 先生 / 湯口 晃弘 先生

11:20▶▶11:35

Exploring the Possibilities of Immediate Implant Placement with SPI in the Esthetic Zone

近年、抜歯後即時インプラント埋入に関する科学的根拠は確立されつつあり、適切な条件を満たせば、機能的・審美的に有益な術式となる。しかしながら、インプラントシステムごとに戦略は異なり、成功の鍵は、適応症の選択、正確な術前診断、そしてインプラントポジションの決定であると考えている。SPIインプラントは、機械研磨カラーを有するハイブリッドデザインにより、生物学的かつ機能的に優れた特性を示す。本講演では、審美エリアに焦点を当て、SPIインプラントを用いた抜歯後即時インプラント埋入の臨床的有用性について、文献的背景を交えて考察する。



奥田歯科医院 院長
奥田 浩規 先生

愛知学院大学歯学部卒業
日本臨床歯科学会 大阪支部 理事
ITI Fellow

11:35▶▶11:50

臼歯部抜歯後即時埋入にSPIインプラントを使用するメリット

臼歯部の抜歯後即時埋入は、抜歯窩の形態評価や埋入ポジショニングなど、多くの臨床判断を要する術式である。筆者はこれまで複数のインプラントシステムを用いて臼歯部の即時埋入を行ってきたが、SPIインプラントはハイブリッドネック形状をはじめとする特徴的なデザインを有しており、その特性を踏まえた治療計画が求められる。本講演では、抜歯後即時埋入における基本的な評価ポイントを整理するとともに、SPIインプラントを臼歯部の抜歯後即時埋入に適用することで得られる臨床的メリットについて、症例を交えて報告する。



姫路駅前グランツ歯科 院長
栗谷 英信 先生

大阪大学 歯学部 卒業
日本顎咬合学会 認定医
LSGP KOBE 理事
モリタプラクティスコース
インストラクター

11:50▶▶12:20

Immediate Implant Placement in the Esthetic Zone - State of the Art? -審美領域における即時インプラント埋入 - 最先端の治療法？

審美領域におけるインプラント治療は、過去10年間で著しい変化を遂げてきました。現在のエビデンスによると、審美領域におけるインプラントの審美結果については、即時、早期、待時のいずれのタイミングでインプラントを埋入した場合でも、もはや大きな違いは認められません。その結果、即時インプラント埋入は、患者の期待や要望に沿うものとして、審美領域においてますます好まれるアプローチとなっています。本講演では、審美的に重要な部位への即時インプラント埋入について取り上げます。



Prof.
Dr. Markus Hürzeler

1984年 スイス・チューリヒ大学
医学博士号取得
1989年 スイス歯周病学会 認定医
1991年 ドイツ補綴歯科学会 認定医
ドイツ・アールベルグ・ルートヴィヒ大学
臨床准教授
1997年～ ドイツ・ミュンヘン
Dr. Otto Zuhrtと共に
プライベートクリニック運営



GBR

座長 栗谷 英信 先生 / 小川 雄大 先生

13:25▶▶13:40

骨欠損におけるGBRの術式選択と展望

欠損修復において、適切なインプラント埋入ポジションは長期的な維持安定につながる。しかしながら、抜歯後の歯槽堤形態は様々であり、インプラント周囲に十分な骨量が得られない場合はGBR法による骨造成をする必要がある。現在、大規模なGBRを回避するために、抜歯直後の歯槽堤保存術などが日々の臨床でおこなわれている事である。しかしながら、歯周組織フェノタイプに依存して、インプラント埋入と同時の追加のGBRが必要になる場合も存在する。今回は骨欠損形態に分類して、インプラント埋入における同時法・段階法でのGBRの術式選択について考察したい。

13:40▶▶13:55

GBRにおける骨補填材とメンブレンの安定性について

長期的に安定しているインプラントの多くは、その周囲に適切な量の硬軟組織が存在している。しかしながら、最終補綴装置の形態を考慮した理想的なインプラント埋入ポジションを検討すると、唇側に硬組織が欠損または2mm以下の非常に薄い骨しか存在しないことも多く、骨造成が必要である。特に、前歯部の審美的要求度の高い部位や臼歯部のポーンハウジングを構成する骨が大きく失われている部位には、垂直水平的な骨欠損の再建のために、非吸収性メンブレンを適応する。その成功の鍵は、数カ月間の治癒期間の間に骨補填材を長期に安定させるためのメンブレンの賦形と固定であると考えている。このマテリアルの安定に関して議論したい。

13:55▶▶14:25



GBR Today - What Do We Need to Consider?

GBRの現在 - 何を考慮すべきか?

患者さんの期待を考慮し、水平および垂直方向の骨造成のアプローチを再考する必要があります。多くの場合、患者さんは4〜5回の手術を含む2年間の治療期間に耐えなければなりません。このような状況を踏まえ、これらの概念は再評価されるべきであると考えます。治療期間を短縮し、手術の回数を減らすことは可能でしょうか?さらに、これらの処置の予知性についても議論する必要があります。骨造成処置を行うと、合併症の発生率が上昇するとされていますが、このような問題を克服できる可能性はあるのでしょうか?



あんざい歯科医院 理事長
安斉 昌照 先生

日本歯科大学 卒業
神奈川歯科大学 口腔統合医療学講座
特任講師
ENの会 東京理事
CIDクラブ



きずな歯科クリニック 副院長
萩原 誠 先生

広島大学歯学部卒業
i6理事
LSGPファカルティ
ITIメンバー



Prof.
Dr. Markus Hürzeler

1984年 スイス・チューリヒ大学
医学博士号取得
1989年 スイス歯周病学会 認定医
1991年 ドイツ補綴歯科学会 認定医
ドイツ・アールバート・ルートヴィヒ大学
臨床准教授
1997年〜 ドイツ・ミュンヘン
Dr.Otto Zuhrtと共に
プライベートクリニック運営

Dr.Markus Hürzeler SESSION I

座長 小川 雄大 先生 / 奥田 浩規 先生

14:40▶▶16:10



Socket-Shield Technique

ソケットシールド テクニック

抜歯後の部位における軟組織の欠損に対処するため、さまざまな臨床的推奨事項やリジブリザベーションテクニック(歯槽堤保存術)が文献で紹介されています。これらの方法は、抜歯窩の自然治癒に比べ、抜歯後の垂直および水平方向の欠損形成を大幅に減少させることが実証されています。しかし、システムティックレビューでは、抜歯後の歯槽堤の吸収をある程度は抑制することはできても、完全に回避することはできないという結論が常に導き出されています。将来的に、より多くのインプラント患者が即時インプラント埋入の恩恵を受けられるようにすることを目標とするのであれば、抜歯後の歯根膜および束状骨(線維束骨)の喪失を防ぐことが不可欠です。この点において、「ルートリテンション」への関心が高まっています。特に、ポンティック部位造成のための「ルートサブマージョンステクニック(RST)」や即時インプラント埋入のための「ソケットシールドテクニック」が注目されています。基本的な考え方はシンプルです。歯根とその歯周アタッチメント組織をソケット内に維持することで、束状骨を保存し欠損の形成を回避することができます。このような条件下では、頬側骨の存在の有無やそのサイズに関わらず、また追加的な増大術を必要とせずに、予測可能で審美的な結果が得られる可能性があります。さらに、特に複数歯を置換する必要があるような複雑な症例では、これまで達成できなかった審美的な結果を達成できる可能性があります。本講演では、ソケットシールドテクニックに関する最新の生物学的および機械的な洞察を紹介します。臨床手順をステップバイステップで概説し、長期臨床例を解説します。



Prof.
Dr. Markus Hürzeler

1984年 スイス・チューリヒ大学
医学博士号取得
1989年 スイス歯周病学会 認定医
1991年 ドイツ補綴歯科学会 認定医
ドイツ・アールバート・ルートヴィヒ大学
臨床准教授
1997年〜 ドイツ・ミュンヘン
Dr.Otto Zuhrtと共に
プライベートクリニック運営

Dr.Markus Hürzeler SESSION II

座長 安斉 昌照 先生 / 湯口 晃弘 先生

16:25▶▶17:25



Simplifying implant therapy in the sense of the patient expectations

患者の期待に応えるインプラント治療の簡素化

今日では、インプラント周囲粘膜炎とインプラント周囲炎の発生についてますます注目されるようになり、これらの疾患の予防が本格的に始まりました。現在では、インプラント周囲の安定した臨床状況を確立するために何をすべきかについて、より高い意識が持たれるようになってきています。インプラント治療においては、患者さんの希望や期待に細心の注意を払う必要がありますが、インプラント治療は依然として長期にわたる痛みを伴う治療です。また、患者さんは複雑な治療よりもシンプルな治療コンセプトを好みます。したがって、私たちは患者さんが求める要望や期待に特に重点的に取り組む必要があります。患者さんのために、インプラント治療のコンセプトを簡素化し、機能性と審美性を維持しながら、治療費、治療期間、合併症のリスクを軽減してゆく必要があります。本講演では、デジタル技術を日常臨床に取り入れることについてお話しします。さらに、このプレゼンテーションでは、新しい技術とその他の臨床的変化を組み合わせながら、今日のインプラント治療に対する患者さんの希望を満たす手がかりをつかむことができるでしょう。



Prof.
Dr. Markus Hürzeler

1984年 スイス・チューリヒ大学
医学博士号取得
1989年 スイス歯周病学会 認定医
1991年 ドイツ補綴歯科学会 認定医
ドイツ・アールバート・ルートヴィヒ大学
臨床准教授
1997年〜 ドイツ・ミュンヘン
Dr.Otto Zuhrtと共に
プライベートクリニック運営

Hands On 12.1 mon 0:00- 受付 Start!!

日 時 **2026.4.25 sat 9:00-18:00**
受付開始 8:30

会 場 **Dental Plaza Tokyo**
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4丁目3番地
新お茶の水ビルディング 4階 TEL 03-5280-9388

定 員 歯科医師 **20名** ※定員になり次第締め切らせていただきます。

お申込み 【参加ご希望の方は、必ず事前にお申込みください】



お申込みはこちらの
二次元コードよりお願いします。
<申込期限> 2026年4月10日(金)

参加費 **250,000円**

参加費のご入金について
※参加費には昼食代、消費税が含まれています。
懇親会費は別途頂戴いたします。
懇親会の詳細につきましては後日参加者の方へご案内いたします。
※参加費のお支払方法はクレジット決済もしくは銀行振込のどちらかを選択いただけます。
銀行振込をご希望の方は、受付確認返送メールに記載の銀行口座にご入金ください。
参加費の入金完了をもちまして正式な受付完了といたします。
※振込手数料は振込側でご負担をお願いいたします。
※セミナー受付確認の返送メールがお申し込み後、数日内に届かない場合はご連絡ください。
※4月16日(木)以降のキャンセルによる参加費の返金はいたしかねますので、予めご了承ください。

※写真撮影、ビデオ撮影、録画等はお断りさせていただきます。
※台風などの天災の影響により開催を中止する場合がございます。
開催情報は弊社ホームページをご確認ください。
※領収書をご入用の方はお申込み完了時のメールや参加証に記載のURL/ 二次元コードからダウンロードしていただけます。

Symposium 10.24 fri 0:00- 受付 Start!!

日 時 **2026.4.26 sun 10:00-18:00**
受付開始 9:00

会 場 **東京ポートシティ竹芝 ポートホール**
東京都港区海岸1-7-1
東京ポートシティ竹芝 オフィスタワー1階

定 員 **300名** 歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士

お申込み 【参加ご希望の方は、必ず事前にお申込みください】



お申込みはこちらの
二次元コードよりお願いします。
<申込期限> 2026年4月10日(金)

参加費 2026年1月20日までにホームページよりお申込み
頂いた方は通常より2,000円割引となります。

早割 1月20日まで	通常申し込み
13,000円	15,000円

参加費のご入金について
※参加費には昼食代、消費税が含まれています。
※参加費のお支払方法はクレジット決済もしくは銀行振込のどちらかを選択いただけます。
銀行振込をご希望の方は、受付確認返送メールに記載の銀行口座にご入金ください。
参加費の入金完了をもちまして正式な受付完了といたします。
※振込手数料は振込側でご負担をお願いいたします。
※セミナー受付確認の返送メールがお申し込み後、数日内に届かない場合はご連絡ください。
※キャンセルによるご返金は致しかねますので、予めご了承ください。

※写真撮影、ビデオ撮影、録画等はお断りさせていただきます。
※台風などの天災の影響により開催を中止する場合がございます。
開催情報は弊社ホームページをご確認ください。
※領収書をご入用の方はお申込み完了時のメールや参加証に記載のURL/ 二次元コードからダウンロードしていただけます。